

### (3) 中学部

#### (1) 中学部の教育目標

- ①基本的な言語力とコミュニケーション能力の定着を図り、基礎学力の向上を目指す。
- ②生徒相互の好ましい人間関係を育てると共に責任感、忍耐力、思いやりの心を育てる。
- ③健康保持および体力向上等の生活習慣を確立し、社会参加・自立に必要な基礎的な知識や態度を育てる。
- ④生徒が自ら主体的な生き方を考え行動するような態度や能力を育成し、主体的に進路選択ができるように指導を図る。

#### (2) 教育課程の編成方針

- ① 一般学級においては学習指導要領を基に中学校に準じた教育課程を編成し、生徒の実態に応じて指導内容を弾力的に選定する。
- ② 重複障害学級（知的代替）においては、各教科等で育成を目指す資質・能力を明確にした上で、個々の生徒の実態に応じて効果的に実施するために、教科別の指導や教科等を合わせた指導を弾力的に行えるよう編成する。
- ③ 各学部、各学年の連携を図り、一貫性のある教育課程を編成する。
- ④ 各教科等の基礎的・基本的な事項に重点を置いて、指導の充実を図る。
- ⑤ 生徒の障害の状態や発達段階に即した指導が十分行われるよう弾力的に編成する。併せて個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成し、指導の充実を図れるよう編成する。
- ⑥ 生徒の実態に応じ、他校及び地域社会との交流活動が図れるよう編成する。
- ⑦ 社会自立・参加に必要な基礎的な知識・技能及び態度を培う指導の充実が図れるよう編成する。

#### (3) 各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動の指導の重点

指導計画の作成と各学年の内容の取り扱いに当たっては、次の事項に配慮する。

- ①体験的な活動等を通して的確な言語概念の形成を図り、生徒の発達に応じた思考力の育成に努めること。
- ②生徒の言語発達の程度に応じて、主体的に読書に親しむ態度を養うように工夫すること。
- ③生徒の聴覚障害の状態等に応じて、指導内容を適切に精選し、基礎的・基本的な事項に重点を置いて指導するとともに、生徒の思考力・判断力・表現力を育む学習活動を行うこと。
- ④個に応じたコミュニケーション手段（聴覚口話や手話・指文字等）及び共通のコミュニケーション手段（手話）を活用し、効果的な学習活動が展開できるようにすること。
- ⑤補聴器等の利用により、生徒の保有する聴覚を最大限に活用し、効果的な学習活動が展開できるようにすること。
- ⑥視覚的に情報を得やすい教材・教具やコンピュータ等の情報機器を有効に活用し、指導の効果を高めるようにすること。
- ⑦生徒の言語発達の程度に応じて、言葉による意思の相互伝達が活発に行われるように指導方法を工夫すること。